

第34期第3回研究会「岩波書店百年にみる出版メディア史」（メディア史研究部会企画）のご案内

日 時：2014年3月7日（金）18:00～21:00

場 所：共立女子大学 本館108講義室

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1

電話：03-3237-2869（文芸メディア共同研究室）<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>

※東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線「神保町」駅下車A9  
出口から徒歩2分、東京メトロ東西線「竹橋」駅下車1b出口から徒歩3分

問題提起者：十重田裕一（早稲田大学）

吉田 則昭（立教大学）

討 論 者：紅野 謙介（日本大学）

佐藤 卓己（京都大学）

荻部 直（東京大学）

司 会：大島十二愛（共立女子大学）

2013年に出版社・岩波書店が百周年を迎えたことで、関連書が数多く刊行されている状況にある。学会の研究部会としては、これを出版メディア史の問題として取り組みたいと考える。については、昨年刊行された、紅野謙介『物語 岩波書店百年史 1 「教養」の誕生』、佐藤卓己『物語 岩波書店百年史 2 「教育」の時代』、荻部直『物語 岩波書店百年史 3 「戦後」から離れて』（いずれも岩波書店）、十重田裕一『岩波茂雄 低く暮らし、高く想ふ』（ミネルヴァ書房）の著者の方々に登壇頂くことを企画した。

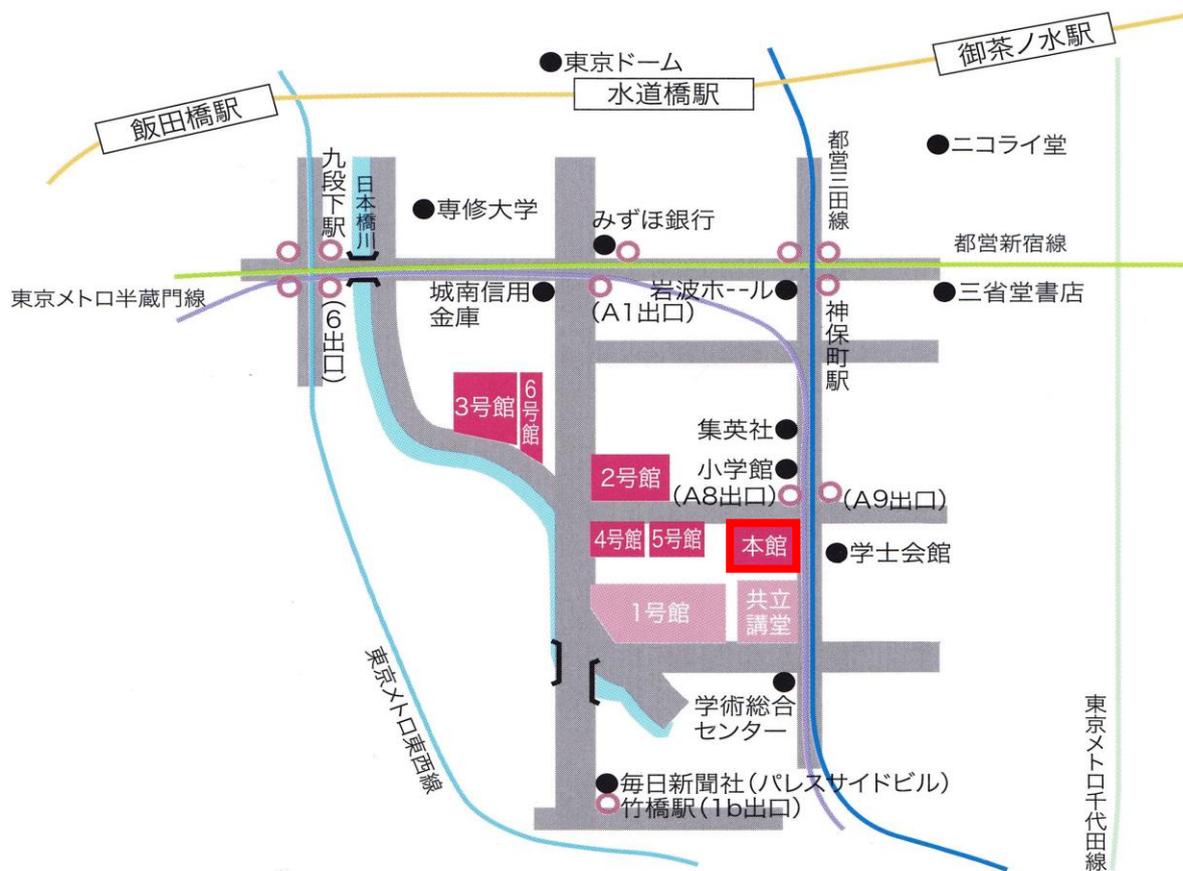
今回の研究会では、報告者2名が上記『岩波書店百年史』3巻本を念頭においた問題提起を行い、それに討論者の3名が議論に加わり、その後、フロアからの質疑応答を受けていくという進行を考えている。

岩波書店が営んできたこの百年とは、大正・昭和期の近代日本においてどのような意味を持ったのか、単に出版メディア史の問題のみならず、各巻のタイトルである「教養」「教育」「戦後」という領域からも、広がりを感じさせるものにしたい。

この研究会の検討事項として、例えば、以下のような問題意識を共有したい。第一に、岩波書店の知的営為とは、大正期、昭和戦前期、昭和戦後期など、それぞれの時代局面においてどのようなものであり、これまでの通史、通説にどのような意味を与えることになるのか、第二に、文学、歴史学、思想史研究と出版社の関係・役割は、従来の見方にどのような再考を促すのか、そして第三に、大正期以降の大衆化の潮流の中における「岩波文化」の展開過程、戦後への推移とはどのようなものであったのかなどである。こうした観点から、主として岩波書店が果たしてきた役割について取り上げ、問題提起者・討論者の双方からも言及して頂く。

討論では、岩波書店の百年という対象自体について詳細を究めるのではなく、その対象を通じて、この出版社が何を成し遂げ、影響を及ぼしてきたか、といったことから、活発な意見交換、質疑を期待したい。その上で、本研究部会としても、これら研究の評価・総括を行いたいと考える。

共立女子大学神田一ツ橋キャンパス アクセスマップ



※ 近隣のビル解体工事により、地下鉄神保町駅 A8 出入口は閉鎖中です。  
ご来校の際は、A9 出入口をご利用ください。